

# 会務報告

## ◇ 委員会報告 ◇

### ● 大会委員会

◆2013年9月28日(土), 2013年度第3回大会委員会が開催された。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2013年度秋季大会(関西外国語大学)準備の進捗状況について

当日のタイムマネジメントやパネルセッションの運営について検討し, 当日の業務体制を確認した。

2. 2014年度春季大会以降の企画・運営について

2014年度秋季大会の同時開催イベントに関する企画について検討した。

3. 基本タイムテーブルおよび採択数の方針について

採択基準に達している発表を会場面で可能な限り採択し, 参加者がより多くの発表を聴けるようにするため, 基本タイムテーブルと採択数の方針について検討した。

4. 大会研究発表規定の改定について

「5(3)要旨」の項目について, 発表内容によっては記載しにくい状況であることから, 本項目の改定について検討した。

5. 大会運営検討ワーキンググループ(WG)中間報告

参加者のニーズに関する情報収集の状況について報告があった。今後, 具体的なアクションプランについてWGで検討し, 2014年2月の委員会に提案することとした。

◆2013年10月12日(土), 13日(日), 2013年度日本語教育学会秋季大会が関西外国語大学中宮キャンパスで開催された。参加者は招待者・関係者を合わせて756名であった。

1. 1日目は, 開会式に引き続き, 四つの会場で8件のパネルセッションが行われた。各パネルとも熱心な発表, 討議が行われた。

2. 懇親会は, キャンパス内の第3食堂で行われ, 招待者・関係者を合わせて150名の参加者があった。

3. 2日目には, 五つの会場で39件の口頭発表, 四つの会場で24件のポスター発表, 二つの会場で5件のデモンストレーションが, それぞれ行われた。どの分科会も盛況であった。

◆2013年10月13日(日), 関西外国語大学中宮キャンパス2号館2204教室において2013年度第4回大会委員会が開催された。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2014年度春季大会の企画・運営について

創価大学・山岡政紀氏よりご挨拶と準備状況についての報告があった。

下記議題4の審議内容を受けて, パネルセッション会場および口頭発表会場の追加について調整することを確認した。

2. 今大会実施状況中間報告について

口頭発表会場でのパワーポイント使用についての問題が報告された。

3. 2014年度秋季大会以降の企画・運営について

2014年度秋季大会の同時開催イベントに関する企画として, 「地域」「論文」をテーマとした2つのイベントについて検討し, 今後, 関係者との調整を行いつつ, 具体的に企画することとした。

4. 基本タイムテーブルおよび採択数の方針について

採択の基本方針, 採択件数の目安, 基本タイムテーブルについて確認し, 今後の方針として承認された。2014年度春季大会より適用する。

5. 今後の委員会日程について

次回の委員会は, 2014年2月1日(土)に都内の会議室(予定)において行う。

(庵 功雄)

### ● 学会誌委員会

2013年11月2日(土)午後1時~6時, 日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

156号・158号の刊行準備進捗状況および来年度科研費申請の方針などの報告の後, 以下の審議が行われた。

1. 第9回林大記念論文賞選考部会員の推薦。

2. 157号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼6件の決定。

3. 157号投稿論文(投稿総数41本(研究論文22, 調査報告8, 実践報告5, 研究ノート6)の審査。

4. 新判定要領および査読プロセスに関する再検討。

5. 2015年度における特集号の刊行時期に関する検討。

次回委員会予定: 2013年3月8日(土)

(齋藤 ひろみ)

### ● 研究集会委員会

◆ 研究集会実施報告

1. 2013年度第4回研究集会(北海道地区)

日時: 2013年7月6日(土) 9:30-17:45

会場: 北海道大学国際本部留学生センター

参加人数: 69名(会員38名(うち北海道日本語教育ネットワーク会員9名), 北海道日本語教育ネットワーク会員16名, 一般15名)

内容：ワークショップ、研究発表（口頭7件、ポスター2件）

ワークショップ講師：山内博之氏（実践女子大学）

題目：「自分のクラスの学習者に合った会話テキストの作り方」

研究発表は、口頭7件、ポスター2件であった。内容は、外国人児童の教科学習の事例研究、読解クラスでの語彙指導、ビデオチャットを用いた音声教育、来日外国人観光客の宿泊施設でのインターアクション、JSLの年少者が求める支援者像、意見文の「型」の習得と「想」の拡充・深化をめざした試み、依頼表現の縦断調査、言語調整の学習・点検の支援システム、プロジェクト活動に対する日本語学習者の意識等、多岐にわたっていた。発表者は、北海道、東北、信越、関東および台湾、アメリカと、幅広い地域からの参加であった。ワークショップは、講師の山内博之氏よりロールプレイカード作成の要点に関するユーモアあふれる説明を経て、参加者が小グループで、現場で使用できるロールプレイカードの作成をした。作業中および最後の質疑応答の時間も会場では活発な意見交換が行われた。今回の研究集会の特徴としては、研究発表、ワークショップの全体を通して参加者の人数にあまり変動がなく、会場が終始熱気に満ちていたことが挙げられる。例年通り「北海道日本語教育ネットワーク」との共催であったが、ネットワークの会員は参加者の約4割を占めており、今後もネットワークとの協力関係を維持していく必要性が実感された。

（報告者：飯嶋美知子）

## 2. 2013年度第5回研究集会（関東地区）

2013年度日本語教育現場からの実践研究フォーラム

「実践研究のリフレクション—実践研究フォーラムの10年と実践研究の今後—」

日時：2013年8月3日（土）～4日（日）

会場：武蔵野大学有明キャンパス

参加人数：214名（会員147名、一般67名）

内容：対話型・体験型セッション（6件）、特別企画セッション（2件）、ポスターセッション（20件）、パネルセッション「実践研究のリフレクション—実践研究フォーラムの10年と実践研究の今後—」。

「実践研究フォーラム」は10年の節目を迎え、これまでの軌跡を振り返りながら、実践研究のプロセスや実践研究そのものへの問い直しを行うと共に、今後へ向けての新たな方向性を探ることを旨として開催された。

形式は前年度のセッションの枠組を踏襲したが、今回は初の試みとして、委員による特別企画セッション「始めよう！実践研究」「伝えよう！実践研究」を設け、これから実践研究を志す方や既に何らかの実践を行っている方に、発表、発信への方法を考えてもらう機会を提供した。各セッション共に人数の大きな偏りもなく、海外からの発表・発題者、参加者も多数迎え、多様な実践

内容に対して活発な意見や情報の交換が見られた。

また一方で、募集からWeb版報告書に到るまでの一連の流れの中で再考すべき課題や、本フォーラム開催の在り方についても見直すべき諸問題を確認することができた。

（報告者：村澤慶昭）

## 3. 2013年度第6回研究集会（関西地区）

日時：2013年8月31日（土）13：00-17：40

会場：京都外国語大学

参加人数：148名（会員97名、一般51名）

内容：講演、研究発表（口頭18件）

講演講師：白川博之氏（広島大学）

題目：「もう一步の日本語文法—納得のいく文法説明を求めて—」

夏休み期間中の開催であったが、150名近くの参加者を得た。前半の講演の部では、日本語教育における文法の説明について、具体的な例を豊富に示すことによって、どのような問題があるのかということフロアとともに考えていくというものであった。日本語を教えている者も学んでいる者も、もう少し的を射た文法の説明がほしいと日ごろ現場で漠然と感じていることが具体的にどのようなことなのかを意識することができた。また、フロアからの質疑応答も活発であった。研究発表は、関西からだけでなく、関東、名古屋、九州、さらに中国、韓国、台湾からと、広範囲から発表者が集まった。18件の発表は4会場に分かれて、実践的な内容、学習者や日本語そのものを追及した内容とバラエティに富んでいた。

（報告者：由井紀久子）

## ◆ 2013年度後半の研究集会予定

### 1. 第10回研究集会（関西地区）

2014年3月8日（土）、園田学園女子大学

※発表応募は締め切りました。

## ◆ 2014年度の研究集会予定

### 1. 第1回研究集会（九州・沖縄地区）

2014年6月14日（土）～15日（日）、鹿児島大学

郡元キャンパス

発表応募締切：2月11日（火）

講演・ワークショップ講師：中川千恵子氏（早稲田大学）

### 2. 第2回研究集会（北陸地区）

2014年6月21日（土）、福井大学

発表応募締切：2月7日（金）

講演・ワークショップ講師：荒川洋平氏（東京外国語大学）

### 3. 第3回研究集会（中部地区）※今年度は7月開催です。

2014年7月5日（土）、愛知大学名古屋キャンパス

発表応募締切：2月28日（金）  
講演講師：細川英雄氏（早稲田大学名誉教授／言語文化  
文化教育研究所八ヶ岳アカデミア・代表）「今、なぜ活動型日本語教育なのか—ことばの教育の課題と展望—」

4. 第4回研究集会（北海道地区）  
2014年7月5日（土）、北海道大学  
発表応募締切：3月7日（金）  
ワークショップ講師：小山悟氏（九州大学）「習得研究の知見を生かした教案作成—わかりやすく、楽しく、役に立つ授業—」
5. 第5回研究集会（関東地区）  
「実践研究フォーラム」  
2014年7月下旬または8月上旬予定、会場：東京予定  
発表応募締切：3月上旬予定
6. 第6回研究集会（関西地区）  
2014年9月予定、会場：大阪予定
7. 第7回研究集会（四国地区）  
2014年11月8日（土）、鳴門教育大学
8. 第8回研究集会（東北地区）  
2014年11月予定、盛岡大学
9. 第9回研究集会（中国地区）  
2014年12月予定、岡山大学
10. 第10回研究集会（関西地区）  
2015年3月予定、会場：京都予定

※各地区研究集会のプログラム、発表要旨、発表募集情報等は、日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

#### ◆会議記録

1. 全体委員会  
2013年度第2回研究集会委員会全体委員会  
(2013年10月13日、関西外国語大学)

#### <報告事項>

- (1) 委員長、副委員長挨拶
- (2) 新委員紹介
- (3) 各地区の報告（開催報告、予定等）

#### <審議事項>

- (1) 2014年度発表応募規定について
- (2) 各地区からの審議事項  
・2重投稿の疑いのある投稿について

#### 2. 地区代表者会議

2013年度各地区代表者会議（2013年8月23日、日本語教育学会事務局）

#### <報告事項>

- (1) 2013年度研究集会実施報告（九州・中部・北陸・北海道・関東）
- (2) 2013年度研究集会進捗状況（関西・中国・東北・四

国）

#### <審議事項>

- (1) 今期の委員会体制について（委員長・副委員長の選出）
  - (2) 2014年度研究集会発表規定（発表募集）について  
・カテゴリー分類について  
・査読および委員アドバイスについて  
・二重投稿等の投稿マナー
  - (3) 2014年度研究集会日程について
  - (4) 今後の地区研究集会のあり方の検討
3. 関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）  
主な検討事項は、2013年度WEB版実践研究フォーラム報告、2014年度実践研究フォーラム開催について
  - (1) 2013年度第4回関東地区委員会（2013年10月8日）
  - (2) 2013年度第5回関東地区委員会（2013年11月5日）
  - (3) 2013年度第6回関東地区委員会（2013年12月10日）

#### ◆次回会議日程

1. 全体委員会  
2014年度第1回研究集会全体委員会（2014年6月1日、創価大学（春季大会会場））
2. 地区代表者会議  
2014年度地区代表者会議（2014年日時未定）
3. 関東地区委員会  
2013年度第7回関東地区委員会（2014年3月予定）

#### ● 教師研修委員会

#### ◆研修実施報告

1. インターネット映像配信サービスを利用した教師研修と遠隔事業の実際  
講師：村上吉文氏（国際交流基金派遣日本語教育上級専門家）  
開催日：2013年10月27日（日）  
会場：国際交流基金日本語国際センター  
参加者：33名

#### ◆2013年度後半の研修予定

1. 異文化理解教育ワークショップ「日本イメージからみたコンフリクトと解決」  
開催日：2013年12月14日（土）  
会場：東京大学 定員：30名
2. タスク作りから考えるビジネス日本語教育  
開催日：2014年1月18日（土）  
会場：政策研究大学院大学 定員：30名
3. 教室活動のデザインVI（テーマ：教室活動）  
開催日：2014年2月～3月予定  
会場：未定 定員30名予定
4. 日本語教師のためのオンラインIT講座

開催日：2014年1月～3月予定，定員10名予定

※上記はいずれも予定のため，研修タイトルや日時，会場等が変更する場合があります。各研修の募集詳細は決定次第，日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2013年度第3回教師研修委員会（9月27日）

- (1) 2013年度研修実施報告
- (2) 2013年度研修の検討
- (3) 今期教師研修委員会のコンセプト作り（2014年度研修計画へ向けて）
- (4) その他

◆次回会議日程

1. 2013年度第4回教師研修委員会（2013年12月7日）

（館岡 洋子）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2013（平成25）年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して，会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること，並びに，海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り，会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は，必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店（普）130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください）。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々に，「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係（[kaiin@nkg.or.jp](mailto:kaiin@nkg.or.jp)）までお問合せください。

<年度会費>

- 普通会員 10,000円（年度額）
- 賛助会員 一口50,000円（年度額）

● 住所等の変更について

所定の書式（87ページ）にご記入の上，郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX：03-5216-7552/E-mail：[kaiin@nkg.or.jp](mailto:kaiin@nkg.or.jp)

なお，メールアドレスを新設された方や，メールアドレスを変更された方は，①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を，メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は，ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは，学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用：[gakkaishi@nkg.or.jp](mailto:gakkaishi@nkg.or.jp)